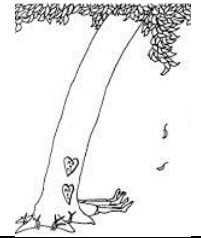




Heart to Heart



校内授業研修会

～「あい学習」を通して、考え、語り合う道德教育をめざして～

北城陽中学校は、今年度の研究テーマを、『あい学習』を通じた考え語り合える道德』の追求とし、特別の教科道德を「あい学習」（学びの共同体）を通して、効果的に行う研究を進めています。

6月11日、研究助言者として、愛知文教大学の倉知雪春先生くらちゆきはるをお迎えし、校内授業研修会を実施しました。本校2年2組（中居学級）の「道德」を参観した後、全教職員、そして他校から参観に来られた中学、高等学校の先生方が、「あい学習」と「道德教育」のあり方について、各自の意見を発表しました。最後に、倉知先生の講演を拝聴し、とても学びの多い、充実した研修会となりました。

中居先生の「道德」は、子どもの側からの発想を大事にした授業でした。そこには、子どもを信頼し、子どもから生まれるものを『受信』することから学びを構築しようとする教師の姿がありました。教師がさまざまな策略をめぐる授業ではなく、教師とともに子どもたち同士が「つないでいく」授業、それが「学び合う学び」です。この「学び合う学び」には、グループが必須となります。なぜなら、グループ学習を軸にすることが、「すべての子どもの学びを保証する」ことになるからです。

「わからなさ」と「あい学習」

子ども自身の「わからなさ」とのかかわりで「少人数グループ学習」の意義を考えてみましょう。必要になるのが、その「わからなさ」を子ども同士で受け止め合えるようにすることです。それが、「学び合い」です。他の教科授業と同様に、「道德」の授業においても、少人数グループによる語り合いの場を多くし、「友達に尋ねる」「友だちとともに考える」ことが当たり前になるようにします。子どもが安心して「わからない」と言える教室、子どもから問いが出る教室は、ペアやグループによる学びの場がいつも設けられています。

子どもの気づきの連鎖によって何かを探求していく学びは、教師による一斉授業では不可能です。グループ学習は一斉授業では実現することのできない子どもの相互の学び合いを生み出すことができます。

グループの学びは、子どもだけの学びの世界です。それだけに子どものペースで学びが進み、率直なことばが飛び交います。その率直さの中に、生徒の気づきが顔を出します。

子どもたちは、他者とのかかわりや対話を通して、個と個の価値観を擦り合わせながら価値観を共有し、その過程で自己や他者と向き合うことによって、道德的価値を自己とのかかわりで理解していくことが、今回の研修会で、明らかになりました。

これからも、新学習指導要領に則り、仲間と語り合い議論することを通して、道德的価値を深め、様々な価値観を認めあえる集団づくりを目指して、教職員一同、日々研鑽を積みます。

夏季休業中には、京都市の中学校の先生を講師にお迎えして、道德教育をテーマに、第2回目の教員研修会を実施します。



学校行事と道徳教育

「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」として新たな位置づけとなり、いじめや子どもの心の問題への対応を重視し、自立した人間として他者とともに、よりよく生きるための基盤となる道徳性を育む道徳教育の充実が一層求められています。

本校の道徳教育のカリキュラムは、学校行事や総合学習に関連した読み物資料を選定した授業内容になっています。子どもたちが自分の経験と重ねて考えられるように、各学年の道徳推進教員を中心に学年教員が話し合った上で、資料を選び、毎週1回の「道徳」の授業の展開を考えています。例えば、学級開きの時期には、「よりよい集団づくり」、生徒総会を目前に控えた時期には「愛校心」、また、総合学習につなげて1年生「福祉体験学習」、2年生「職場体験学習」、3年生「進路学習」、さらには、現在直面している学年の課題、「スマホの使い方」や「他者への配慮」などをテーマにした授業となっています。

また、答えが一つではない道徳的な課題を、一人一人の生徒が自分自身の問題としてとらえ、向き合う「考える道徳」、「語り合う道徳」を実践することにより、子どもが実際に直面した問題に対し、自分はどうすべきか、何ができるかを判断、行動し、自らの生き方を育めるような、よりよい生き方を求め続ける子どもを育てることを目指しています。

北城陽中学校の道徳の時間

1年生「二枚の写真」

病気の浩は、入院中のため卒業式に出られません。卒業式当日、病室で校長が祝辞を述べ卒業証書を取り出します。いざ証書を手渡す段になると、校長は浩を窓際によせ、窓に向かって証書を高く掲げました。浩が目にしたのは、窓から見える学校の屋上で手を振っている同級生全員の姿でした。浩は写真を撮ってほしいと頼みます。一枚は浩に、そしてもう一枚は屋上の同級生にそれぞれピントが合わせられた二枚の写真。そこに写っている誰もが素晴らしい笑顔でした。人々の心が一体となった学校のよさに気付き、協力しあってよりよい学校生活をつくろうとする心を育みます。

お互いに協力しあい、絆を深める場所。どんな困難も、長い時間を一緒に過ごしている仲間がいるからこそ乗り越えられる。そして、学校でいちばん大切なのは「協力」。学校は集団行動の難しさを学ぶ場所でもある。(1年生)

お互いの特徴や違いを受けとめて、互いに助けあい、支えあいながら、長い時間を一緒に過ごす中で、信頼関係を築き、お互いの絆を深める場所が学校です。(1年生)

2年生「加奈子の職場体験」

美容師にあこがれる加奈子は、おしゃれな美容院での職場体験を希望します。ところが結局行くことになったのは、住宅街にぽつんとある「ヘアーハウスヤスタ」頑固おやじの安田さんが一人で切り盛りしているこの美容院は、おしゃれとは言えません。初日は慣れない作業に悪戦苦闘し、安田さんに叱られながら駆け回る加奈子でしたが、だんだんと与えられた仕事をこなせるようになってきます。4日目、お客さんにカットをしている安田さんに声をかけます。「次、何しましょうか。」やる気を見せれば、安田さんもほめてくれるはず。働くことの厳しさや仕事への誇りについて考えます。

僕も失敗をしますが、その後を次にどう生かされるかを考えないと失敗をくりかえすのでしっかり考えたいです。(2年生)

目の前のことに全力を尽くしたいと思います。生きがいを見つけて目標を立て、決意することで、将来不安にならないと思います。(2年生)



3年生「監督がくれたメダル」

レギュラー選手たちを遠くに見ながら3年生で補欠の主人公は外野ノックを続けています。補欠を宣告された主人公は落ち込みました。他の補欠の選手は途中で練習をやめました。主人公は自分の役目である外野ノックを黙々と続けました。大会が終わり、この日で野球部を去る3年生はひとりずつ思い出を語りました。そして主人公の番になったとき、監督が突然立ち上がり「ようがんばった」と、出場記念メダルを渡してくれました。集団に属する一人一人が役割を自覚し責任を果たすことが、集団を高めるだけでなく自己の向上に結びつくことに気づきます。

もし、僕が裏方の仕事にまわって、練習をしていると、たぶん嫌々練習すると思うし、気が入らないと思う。けど、自分に今できることは？と考えたら、チームのためと思って練習する。悔しさをぶつけていたノックが、丁寧なノックに変わった時、自分の役割に気づいたと思う。僕も、これから裏方の仕事でも、「今、何ができるか」を考えて、頼りにされるような人になりたい。(3年生)